

# 環境を守る森林農業

ダグマ山系南端・レイクセブ町山岳部3地区で  
在来種の植林と樹木作物を育てて  
生態系回復・土壌侵食防止・収入向上を  
めざしています

## ① タクネル村ティヌオスでの事業が完了しました

20世帯各1ha、計20haにドリアン、ゴム、コーヒー苗木を各2000本、樹間に8カ月で収穫できるバナナの苗木1000本を植えました。熱帯林再生、生態系回復のため、町が保護区と定めた急斜面の入会地10haには、ラワン、ナボル、ナラ等、各種在来種5000本を植えました。かつて森に自生していた各種熱帯樹種のことを教えたいという先住民族学校（P1参照）のアニタ先生の希望で、子どもの目につく道路沿いにも在来種苗木を植えました。

ゴムやドリアンの収入が入るまでの数年間は、バナナと樹間のコーンで生計を立てますが、かつて森に自生していた籐を使った製品を造る技術を持つジェリドさん（写真）のような住民は、子ども椅子1個が120ペソ（ほぼ小学生の月額学費）になる籐製品も重要な収入源です。村の山には少なくなった材料の籐は、山中を1日歩いてムスリムの町マタタムの森まで買いに行くそうです。

（地球環境基金助成）

自分は SCMSI ベネフ小卒だが、子どもたちはカレッジまで行かせたいと、ゴムやドリアンからの収入に期待するジェリドさん（右）。



## ② 6月終了のラムダラグ村ラムカニダンの事業

緑の募金公募事業として、ラムダラグ村で実施の3年継続1年目事業、タブロ地区の苗木は、乾季の3月も順調に育っていましたが、2年目事業地区ラムカニダンの移植間もないゴム苗木は、乾季の強い日差しに辛うじて耐えている状況です。予定していた苗周りの除草等の手入れも、土壌の乾燥を少しでも防ぐために見合わせています。（国土緑化推進機構助成）



乾季に枯れる苗の植え替え用に、予備の苗木を日陰で育成していますが、これも、一部は葉が黄色になっていて、PPFのサムソンが水やりの徹底を指導していました。

## ③ タシマン村シエテ地区



11月訪問時にも警戒にあたる政府軍兵士の姿を見ましたが、タシマン村は各種事情（P1参照）で、安全でないといわれて、3月の訪問時にはモニターを中止しました。事業の方は、熱帯林保全を教わっている先住民族学校の子どもたちも苗木運びを手伝う（写真）など順調に進んでいるとの報告が届いています。（三井物産環境基金助成）

## 目標はスララ町タラヒク村マダルのゴム農園

レイクセブ町での事業では、隣のスララ町マダル地区の見学が、活動計画に組み込まれています。住民組織により十分管理され、あと2年でゴム樹液の採取が始まる畑を訪ねての研修は、大きな刺激になっています。



タラヒク村マダルのゴムの木と昨年植えた樹間のバナナ。（2010年の国土緑化推進機構助成事業）

## ー 元奨学生が組織した住民組織 BOSDA によるアグロフォレストリー事業も完了しました！ー

植えた苗木は、ゴム4450本、コーヒー750本、在来種苗木は750本、樹間の換金作物ピーナッツが55kgで、受益者はBOSDA以外の地域住民も含めて37人と、当初の計画の5倍以上の苗木数、受益者という結果になりました。また、そのほとんどが、農業専門家ボニファシオの指導により、乾季の3月訪問時にもしっかり育っていました。

これら予想外の実績は、苗木購入を前提にした予算に対して、苗木でなく、種子から苗を育てたためですが、余った苗木代を許可なく共同店舗の赤字補てんに充当するなどの問題が判明しました。幸い、助成団体WE21ジャパン緑には、今後のモニター報告を条件にご了解いただき感謝しています。